

## JNSAのいままでとこれから

NPO日本ネットワークセキュリティ協会  
事務局長 下村 正洋



JNSAは、任意団体として2000年4月に設立され、2001年5月に特定非営利活動法人(NPO)として認可され、同年7月からNPOとして活動してきました。2005年4月には、当初から数えると丸5年の活動の軌跡を残してきたこととなります。その間にネットワークセキュリティをめぐる環境や社会意識は大きく変わってきました。まさに隔世の感があります。当初、JNSAはネットワークのセキュリティをテーマとして考えていたのですが、活動を開始して間もなくネットワークセキュリティではなく情報セキュリティ全般を対象とせざるを得なくなりました。これは振り返ってみれば当然のことでありました。たとえば、個人情報保護法に象徴されるように情報の所有権が明確になり、それに対処する必要があること、また、インターネット上のサービスの拡大と利用者の拡大により、情報の価値が増大し、その情報を悪用する行為が拡大していることなどが考えられます。これらに対処するためには、ネットワークシステムやITシステムを駆使しても完全に対処できるわけでもなく、社会として対処すべきことも必要です。まさに、情報セキュリティを文化として創造することが必要ではないでしょうか。

『技術だけでは問題は解決できない。しかし技術の裏付けがなければ施策もできない。』というのが現実だと思います。ほとんどの技術以外の問題は、すでに社会システムの中で似たような現象が発生していて対応策も考えられています。過去の英知を生かすことができるはずですが、法律や制度の対応に抜け穴があるのであれば、塞げばいいことです。それが経験を生かすということです。イタチごっこは何も今に始まったことではありません。知恵比べは永遠でしょう。

さて、JNSAの「いままで」は、案外うまく行ってきました。かなり独創的な報告書や他ではあまりない活動の蓄積ができました。これらは原則としてJNSAなどのWebページで公開されています。今までの活動は、どちらかというと「問題意識共有型」といえるでしょう。同じ問題を抱えているメンバーが、いろいろな垣根を越えて共通する目的を目指して活動することにより、お金では換え難い成果が得られてきましたし、ビジネスマーケットを形成するために必須の情報を作り公開することができました。この意味で、JNSAは情報セキュリティ分野の成熟に微力ながら寄与できたのではないかと自負しています。

JNSAの「これから」ですが、「いままで」の活動を継続するとともに、新しい動きも出てきています。今までの活動を支えてきた参加者のモチベーションを更に高め、新しいメンバーに加わってもらうとともに、参加企業へのインセンティブも考える必要があります。またインターネット安全教室を通して家庭などITに縁遠かった方達への啓発活動のひとつの成果として、セキュリティ対策推進協議会(SPREAD)のアイデアが出てきたこと、ChallengePKIプロジェクトがインターネット標準を決めているIETF(The Internet Engineering Task Force)で行っている国際的な活動で貢献したり、インシデント被害調査WGが試案した個人情報漏洩の賠償額算定モデル式は、情報資産のリスク評価を行う際の指標となるでしょう。他にも、環境会計にアイデアを得たセキュリティ会計の検討は今後のITセキュリティの施策に重要な意味を持つでしょうし、ITセキュリティの専門家としての技術者の得意分野を分かり易く表現する目的で技術分野の分類整理を行ったスキルマップ、セキュリティポリシーを作るために考え方の叩き台となるポリシーサンプルの公開、等々に加え、これからの情報セキュリティを実現する上での政策を含めた公共的な活動も増えていきそうです。

情報セキュリティは深く考えれば考えるほど、色々なつながりが出てきて奥が深いものだと実感しています。色々な問題点を広く議論し考えられる場として、JNSAを利用していただければ幸いです。今後とも皆様のご協力・ご指導をどうぞよろしくお願いいたします。